

もも袋かけ作業 マニュアル



1 **針金部を利き手で持つ。**



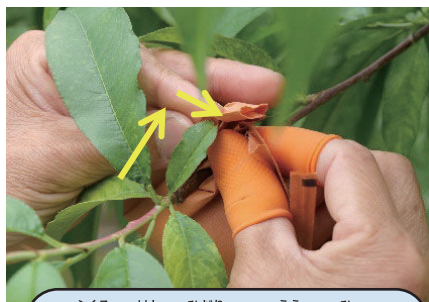
2 袋の両端を持って、
果実が入る大きさに袋の
真ん中を広げる。



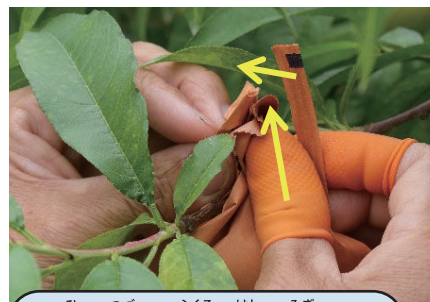
3 **袋の中に葉が入らないように**
果実にかぶせる。



4 **すき間から害虫や雨水が**
入らないように、袋の口を
閉じて枝に密着させる。



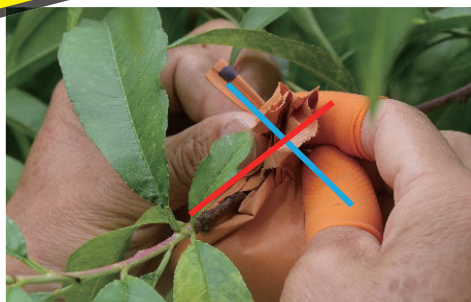
5 袋の端（左）を上につ
張りながら真ん中（手前）
に寄せる。



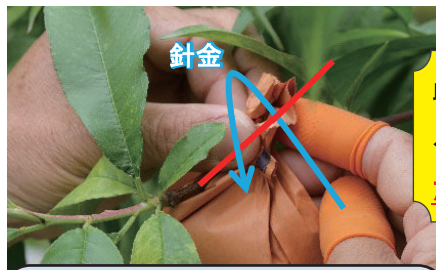
6 引き続き、袋の端（右）を
上に引っ張りながら真ん中
（奥側）に寄せる。



POINT!



7 袋の両端を枝の上で前後
（針金部）が奥側に交差させる。



8 針金部を手前に折り曲げる。
風で落下しないようにぎゅっ
と強く押さえる。

収穫時に袋が外れ
るように**針金は1回**
だけ折り曲げる。



9 袋の底を左右に軽く引っ張り、
隙間を閉じる。
10 袋を軽く引っ張り**固定されて**
いることを確かめる。



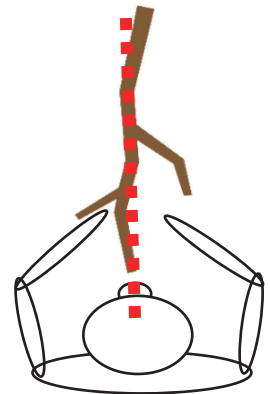
11 完成!

○作業スキルや精度を高めるために(指導員が心がけること)○

- ① 作業に参加する前には、木の枝(又は鉛筆などの細長いもの)を使って作業の練習を行いましょう。指導員の指示がなくても自力で遂行できることを確認しておきましょう。
(事前準備)
- ② 作業のしやすい枝(目の位置より低い、葉が少ない)から作業を開始しましょう。
(段階付け)
- ③ 作業に慣れるまでは作業スピードよりも正確性を重視して行い、指導員がしっかり固定できていることを確認しましょう。
※風で袋が落下することがあります。行程7、8を特に徹底しましょう。
(段階付け)
- ④ 定期的に休憩時間を取り、作業再開時にはポイントを再確認しましょう。
(集中力の維持)
- ⑤ 指導員は仕上がり状況を随時確認して、必要に応じて対象者に応じたわかりやすいアドバイス・モデリングを行いましょう。
(精度の向上)
- ⑥ 農家にも同じ園地で作業を行ってもらい、作業の確認や出来ていることを中心に声かけを行いましょう。
(意欲の向上)

○マニュアルの使用に当たっての注意事項○

- ① 使用する袋の種類は、産地やももの品種で異なります。針金部の切込みの有無、紙の硬さの違いなどもさまざまです。依頼のあった農家が使用する袋で、事前練習を行いましょう。
- ② 枝の先端から、左右の腕で枝を挟むように立つと、袋を枝に対して直角に持っていきやすく、作業がしやすくなります。(右図参照)
- ③ 袋の針金部の先端が指先に突き刺さることがあるので気をつけましょう。
- ④ 袋かけ前に農家が最終摘果まで行っておくと、袋かけ作業に集中でき能率が上がります。(作業によっては最終摘果を行うことが難しい場合があります。)



現地作業に参加するに当たって、この作業をある程度自力で担えそうか予め指導員が見極めを行ったうえで、参加を検討しましょう。

協 力 一般社団法人 岡山県作業療法士会
岡山県農林水産総合センター普及推進課
公益財団法人 岡山県農林漁業担い手育成財団
作 成 岡山県農林水産部農産課
岡山県農福連携サポートセンター